

成熟度の自己評価（チェック表）の使い方

■成熟度について

- 「地域包括ケアシステム」と ICT（医療・介護情報の共有システム）を整合させる組織的な活動の水準を、地域における医療・介護連携の「成熟度」と呼ぶことにします。
- 「成熟度」には、「インフラ」と「運用」の2つ観点が含まれます。「インフラ」はモノ（ICT 環境、具体的なツール）の選択と活用に、「運用」はヒトとプロセス（多機関・多職種のネットワーク、人的資源、体制づくり）に関連しています。
- 「成熟度」は、「手引き（案）」の記載内容に基づき、3つのステージと4段階のレベルに整理しています。

■成熟度の自己評価（チェック表）の目的

- この自己評価（チェック表）は、「医療・介護情報共有の仕組みづくりに向けた手引き」をお読み頂く前に本手引きの全体像を概観する、あるいは一度通読して頂いた後にご自身が参加するの医療・介護情報共有の仕組みづくりが、現在、どの段階にかかるか再確認するためのツールとして作成しました。
- 地域の関係者各自がそれぞれ記載したものを持ち寄って議論し、各地域で合意が取れたものを作り、それを関係者間で共有するプロセスの中で、関係者間の認識合わせにご活用ください。

※なお、自己評価（チェック表）を使う人の中には、「情報共有システムの導入・運用のプロセスのすべてに関わってるわけではない」、「詳しい事情や背景についてはわからない」、「まだ情報共有システムの導入について検討が始まっていない」という人もいます。

そういう場合は、当然、チェックできませんが、そのまま結構です。「不明な点が確認できた」、「導入・運用に当たっては、こうした手順を踏む必要があることが分かった」という理解で良いということです。

■成熟度の自己評価（チェック表）の手順

- まず、「レベル0」と「レベル1」について、「チェック表」を縦に見て行きます（「チェック表」の表側は「手引き」の章構成に対応しています）。
- 「レベル1」の各チェック項目は、情報共有システム導入のための基礎的なプロセスであり、システム稼働後、システムが有効に機能するための必要条件とも言える事項になっています。

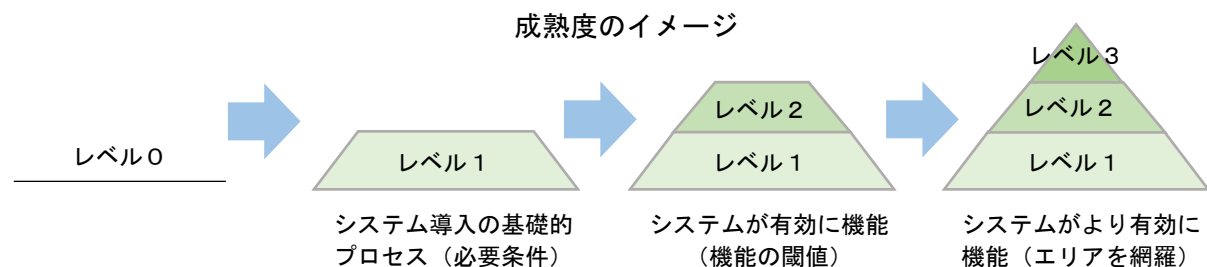


- 次に、「レベル2」について、同様に、チェック表を縦に見て行きます。
- 「レベル2」は、「レベル1」がほぼ達成されていることを前提（基礎）として、稼働している情報共有システムが、導入目的・意図どおりに機能しているかを確認するための項目です。



- 最後に「レベル3」について、チェック表を縦に見て行きます。
- 「レベル1」「レベル2」と積み上がったその上の段階として、情報共有システムが自治体（地域）において、より効果的に広範囲に機能するために必要な事項（要素）が整っているかを確認するための項目です。

○以上、順番に項目をチェックしてみて、もし、あなたがチェックを付けなかった項目があれば、「手引き」を通読する際に、該当箇所を少し意識しながらお読みください。



■認識のすり合わせ（主観と主観のつき合わせ）

- チェックするかどうかの判断は、あなたがお持ちの何らかの根拠資料（定量的なもの、あるいは定性的なもの）によって、第三者に説明できる（と確信をもてる）か否かです。
- あくまで記入者の主観的な判断となりますので、当然ながら、あなたの自治体（地域）の情報共有システム導入・運用に関わる関係者の皆さんと認識のズレが生じる部分があると思います。
- 本「チェック表」は、自治体（地域）の関係者の皆さんとあらためて認識のすり合わせ（成果の確認、課題の発見、改善策の検討等）の素材として活用して頂くことを想定しています。

■客観的な（比較可能な）目安

- チェックする際には、ある程度、量的な指標・目安があると使いやすいと思います。
- 先進事例を参考に、システムが機能している段階（レベル2）における量的な指標・目安として、ステージ1～3について以下の項目に着目します（チェック表の注1～3）。

量的な指標・目安

ステージ	大分類	小分類	量的な指標・目安
1	1 医療・介護の情報共有に向けた基本的条件の整理	2 検討・推進体制の構築	○検討・推進体制が構築されており、行政（例えば、地域包括ケア担当部署など）が中核的な役割を担っている。（注1） ※行政が医療、介護等の関係機関・部門のキーパーソンを巻き込み、信頼、協力関係を構築していく基盤ができている状態を想定。
2	5 システム導入前準備	1 運用規約の設定及びマニュアルの作成	○システムの運用規約を作成し、患者・利用者（例えば、対象者を地域の要介護認定者の全数と定義）へ周知・説明、同意取得に取り組み、50%程度の同意を取得している。（注2）
3	7 システム運用後の対応	1 ICTツールの使い手の拡大と普及	○ICTツールの使い手を地域に拡大し、地域の医療機関、介護・福祉事業所等、想定する関係機関の半数以上がシステム運用に参加している。（注3）